

# 堤防を海沿いの景観を彩る風景に

官民一体となってまちの魅力を発信するがまごおりじなるプロジェクト。2023年7月、その企画会議で「堤防アート」は提案されました。「ジャンボ壁画」から33年が経ち、ダメージを受けている堤防に新たに絵を描こうという企画です。職場も年齢も異なるメンバーが集まり、堤防アートプロジェクトが立ち上がりました。



人々に愛してもらえような堤防に

プロジェクトを進めるにあたり、堤防に絵を描いた実績のある団体に話を聞いたそうです。すると、「集客には美術的な価値が必要だけど、アーティストが描くだけでは市民に愛着をもってもらえない。地域の人にも参加してもらいたいが、完成度の低い作品にはしたくない。皆が残したいと思えるものにすることが大切。」だと。人々に愛してもらえるような堤防にしたいという思いから、アーティストに参加してもらいつつ、子どもから大人まで、だれでも参加できる企画を目指すことに決まりました。



大角さん

話を聞きながら絵に描きあげる、  
スケッチジャーナリストとして活動



児玉さん

市内でミカワアートセンターを  
立ち上げ、市民がアートに  
触れられる場づくりに尽力

しかし、メンバーの中にアートの専門家はいません。そこで、全体のディレクターとして、市内在住のスケッチジャーナリスト・大角さんに、アーティストとの橋渡しをするコーディネーターをミカワアートセンター代表・児玉さんに依頼しました。

## ▼ジャンボ壁画の一部

